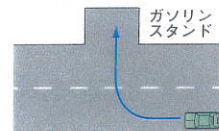


- 問1 進路の前方に大型車が駐車していたが、対向車が普通自動二輪車だったので、加速して二輪車より先に通過した。
- 問2 追い越しが禁止されている場所であっても、前方の安全さえ確認できれば、自動車を追い越してよい。
- 問3 片側の道幅が6メートル未満の見とおしのよいところで追い越しをするときは、道路中央に黄色の実線があっても対向車がいなくてよいときであれば、右側部分へはみ出してもよい。
- 問4 「赤色の灯火の点滅信号」のときは、停止位置で一時停止しなければならない。
- 問5  このような標識のあるところでは、午前8時から午後8時までの間は駐車も停車もしてはならない。
- 問6 人の乗り降りのため止まっている通学、通園バスのそばを通るときは、必ず一時停止して安全を確かめなくてはならない。
- 問7 オートマチック四輪車のエンジンを始動するときのチェンジレバーの位置は、ハンドブレーキをかけてさえいれば「N」の位置でもよい。
- 問8 追い越したあと左側に進路変更するのは早いほどよい。
- 問9 近くに交差点のない道路でも緊急自動車に進路をゆずるときは、必ず一時停止しなければならない。
- 問10  交差点で直進しようとして信号待ちをしていたら、信号機の信号が左図のような表示をしたので、発進した。
- 問11 運転免許は、第一種運転免許・第二種運転免許・原付免許の三つに区分される。
- 問12  このような標識があるところでは、駐車してよいことを表わしている。
- 問13 左右の見とおしがきかない交差点では、安全確認をして必ず警音器を鳴らして通行しなければならない。
- 問14  車はこの標識のあるところでは危険なので、転回してはならない。
- 問15 交差点以外で、横断歩道も自転車横断帯も踏切もないところで警察官が道路で両腕を水平にあげているとき、これに直面する車は警察官の手前1メートルのところで停止しなければならない。
- 問16 停留所に止まっているバスのそばを走行するときは、バスのかげから人が出て来ることを予測しながら運転するのがよい。
- 問17 自転車のそばを通るときは、歩行者のときのように注意する必要はない。
- 問18 「警笛区間」の標識がある道路を大型自動二輪車に続いて通行中、まがり角に近づいたので、警音器を鳴らして、対向車に自車の接近を知らせた。
- 問19 こどもがひとり歩きしているそばを通るときは、警音器を鳴らして通行する。
- 問20  このような標識のある道路は、歩行者と自転車は通行できる。
- 問21 四輪車の運転者は、運転中シートベルトをつけなければならないが、同乗者にまでつけさせる必要はない。
- 問22 踏切の手前で一時停止して列車がこないことを確かめれば、踏切の向う側の交通状況に関係なく踏切に入ってもよい。
- 問23  上り坂の急な右カーブにこのような矢印の標示があるところでは、対向車が進路にはみ出してくるかもしれないから十分注意する必要がある。
- 問24 自動車検査証と自動車損害賠償責任保険証明書または責任共済証明書を車に備えておくと、紛失するおそれがあり再交付の手続きが面倒なので、コピーしたものだけを車の中に置いて運転した。
- 問25 徐行とは、車が直ちに停止できるような速度で進行することをいい、通常その速度は約10キロメートル毎時以下とされている。

問26 前車を追い越すため、または進路変更するために加速する必要があるときは、定められた速度をこえて運転することができる。


問27 右図のように道路の右側にあるガソリンスタンドに入るため、矢印のように左側端から右折し中央線を横断したが、この通行方法は正しい。




問28 これから運転しようとする人には、酒を出したり、すすめたりしてはならない。

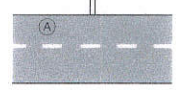
問29 交差点を直進するときは、直進車が優先なので、対向右折車がそれを無視して右折することまで予測する必要はない。

問30 車両通行帯が黄色の線で区画されているところでも、右左折するためであれば進路を変えてもよい。

問31  このような標識があるところでは、直ちに停止できる速度で進まなければならない。

問32 自動車が一方向通行路で右折するときは、あらかじめ道路の中央に寄り、交差点の中心のすぐ内側を徐行しなければならない。

問33  このような標識のあるところでは、④に駐車することができる。



問34 右折や左折の合図は、その行為をしようとする地点から30メートル手前に達したときである。

問35 運転中は、運転免許証をいつでも提示することができるように携帯していなければならない。


問36  このような標示がある通行帯を通行していたが、交差点の直前で右側の通行帯に進路を変えて、右折した。

問37 標識の下に **ここから** があるときは、ここから標識が表わす規制が始まることを示している。


問38  このような左折の進路は正しい。

問39 四輪車の運転姿勢はシートの背に深く寄りかかり、ハンドルに両手をかけたとき、腕がまっすぐにのびているようにする。

問40 交通事故や、車の故障で困っている人を見かけたときは、できるだけ協力し合う気持が必要である。

問41  このような標示は、前方に交差点があることを表わしている。

問42 目のみえない人が白や黄のつえをもって通行しているときは、一時停止や徐行して、その通行を妨げてはならないが、目の見えない人が盲導犬をつれて通行しているときは、一般の人と同じであるから一時停止や徐行の必要はない。

問43  最も左側の通行帯にこのような標識があるときは、バスが近くにいるときにかぎり、普通自動車、小型特殊自動車、原動機付自転車は通行してもよい。


問44 安全な車間距離は、制動距離とほぼ同じである。

問45 右図においてAはBの側方を通過するとき、Cの地点で一時停止しなければならない。

問46 自宅の近くに適当な場所がなかったので、信号機の柱に広告看板を設置した。

問47 交通巡視員は、警察官ではないので、交通巡視員が行う手信号には従わなくてもよい。

問48 車を運転中に携帯電話の呼び出しに应答する場合には、携帯電話を手を持つことなく通話ができるハンズフリー装置を使用する。

問49  このような標識があるときは、すべりやすいからあらかじめ減速し、ブレーキを用いなくてもよいように運転した方がよい。

問50 同じ速度であればブレーキをかけてから車が停止するまでの距離は、路面の状態に関係なく常に同じである。

